

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Prevalence of Congenital Anomalies in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: エコチル調査における先天性形態異常の有病率

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Epidemiology

年: 2019 月: 7 巻: 29 頁: 247-256

筆頭著者名: 目澤秀俊

所属UC名: メディカルサポートセンター

目的:

エコチル調査における61種類の先天性形態異常の有病率の推定とそのデータの妥当性を評価することを目的とした。

方法:

先天性形態異常のデータは、15地域センターの101,825人の医療記録から、出産時と1ヵ月時に収集した。先天性形態異常は、環境暴露との関連性に基づく61種類を収集した。妊娠1万人当たりの罹患率(流産、死産、および生存を含む)を4つの報告パターン(出産時、1ヵ月時、いずれか、両方)にて推定した。有病率の正確性評価に、一つのエコチル調査ユニットセンターからの179例の再評価を実施した。

結果:

4つの報告パターン(出産時、1ヵ月時、いずれか、両方)での主要な先天性形態異常有病率は、脊髄髄膜瘤/二分脊椎で2.4、2.6、3.5および1.4であった。口蓋裂が4.3、4.2、5.3および4.8、口唇裂(口蓋裂の有無を問わず)は18.1、17.4、19.5および19.1であった。再評価では、4つの報告パターン(出産時、1ヵ月時、いずれか、両方)でのカルテ記載は92.7%、93.3%、90.5%および97.8%の一致が確認された。

考察:(研究の限界を含める)

4つの報告パターンにより有病率が異なるが、カルテ転記の確認により、90%以上の一致が確認されている。以上から、妥当性があるデータであると考えられるが、誤差を考慮するため、2つの報告パターンでの結果の一致を確認することを推奨する。一方、臍帯ヘルニアは1ヵ月時の有病率が高く、転記ミスが想定されたため、使用するべきではない。また、先天性心疾患に関しては、ファロー四徴症や心室中隔欠損症等の個別の先天性心疾患名を収集していないため、その評価には注意が必要である。

結論:

エコチル調査における主要な先天性形態異常の有病率の記述を実施した。エコチル調査の先天性形態異常のデータは一定の妥当性のあるものであることが確認された。